

NA335号古窯跡群

調査の経過 本遺跡は、名古屋市緑区大高町高根山地内に所在する。いくつもの小規模な尾根が配された丘陵地帯の斜面に位置し、周辺には多くの古窯跡が確認されている。

発掘調査は、伊勢湾岸道路・第二東海自動車道建設に伴う事前調査であり、建設省より愛知県教育委員会を通じて委託を受け、昨年度から実施している。今年度は、250㎡を6月から8月にかけて調査を行った。

調査の概要 南北に隣接して窯跡2基（仮称F窯・G窯）とそれに付随する灰原が確認された。

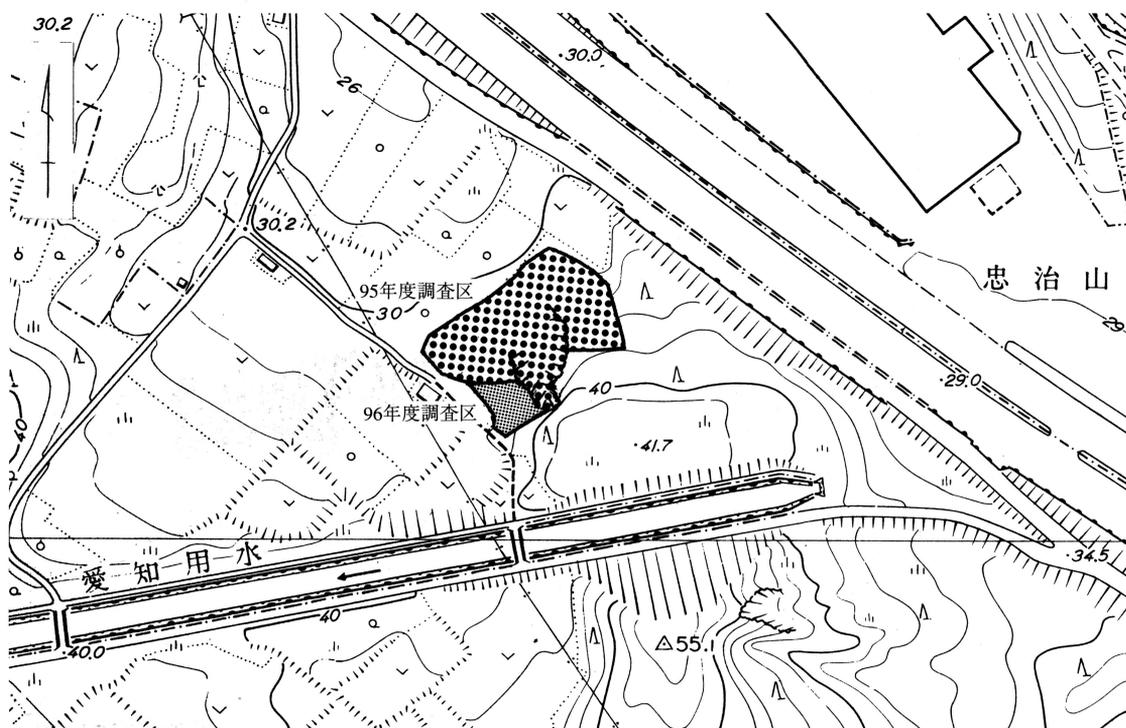
F窯は、窯体の上半部が土採り坑により欠損してはいるが、残存部分では、天井部が火焰柱付近で残っており、さらに、焼台も良好な状態で検出された。

G窯は、煙道部の一部が欠損するのみで、ほぼ窯体全体が確認され、天井部の残存状況も良好であった。しかし、元位置を保った焼台は、わずかに認められたのみであった。昨年度の調査で確認された、碗を敷き詰めた床面下施設がここでも検出されたが、G窯の床面下施設は、碗を敷き詰めただけでなく、その上に小枝や幹を配した状況が認められた。

灰原は、各窯跡の前庭部付近にわずかに検出されたのみであった。

出土遺物の大多数は灰釉系無釉碗で、若干小皿が出土している。時期は、12世紀後半から13世紀前半と考えられる。

（中野良法）



第1図 調査区位置図（1：2500）



F 窯及びG 窯



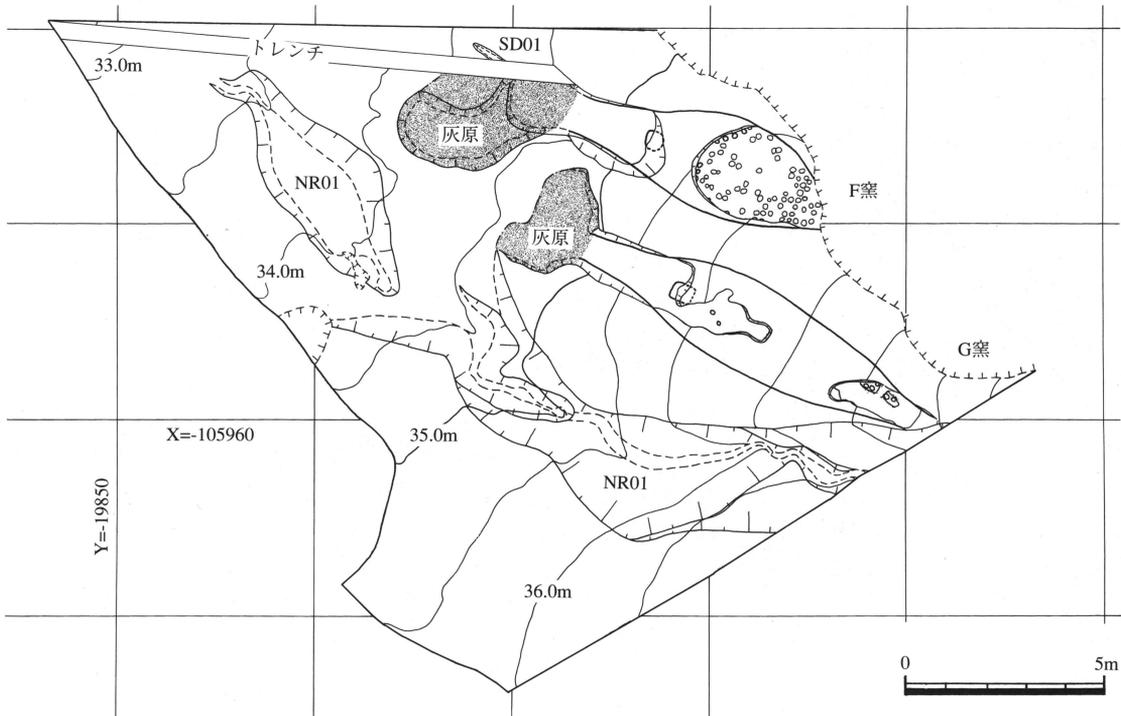
F 窯灰原



F 窯焼台配列状況



G 窯床面下施設



第2図 遺構配置図 (1:200)